

編輯部報情閣內

週報

行發日六十月一十

支那共產軍の實情

殷賑産業勞務者の
銃後生活刷新運動

岳州攻略戰

敵空軍殲滅戰成る

顛落蔣政權の動向

昭和十七年十一月十六日
昭和十七年十一月十六日
昭和十七年十一月十六日

五錢

號九百第



編輯部情報閣内

週報

行發日六十月一十

支那共產軍の實情

殷賑産業勞務者の

銃後生活刷新運動

岳州攻略戰

敵空軍殲滅戰成る

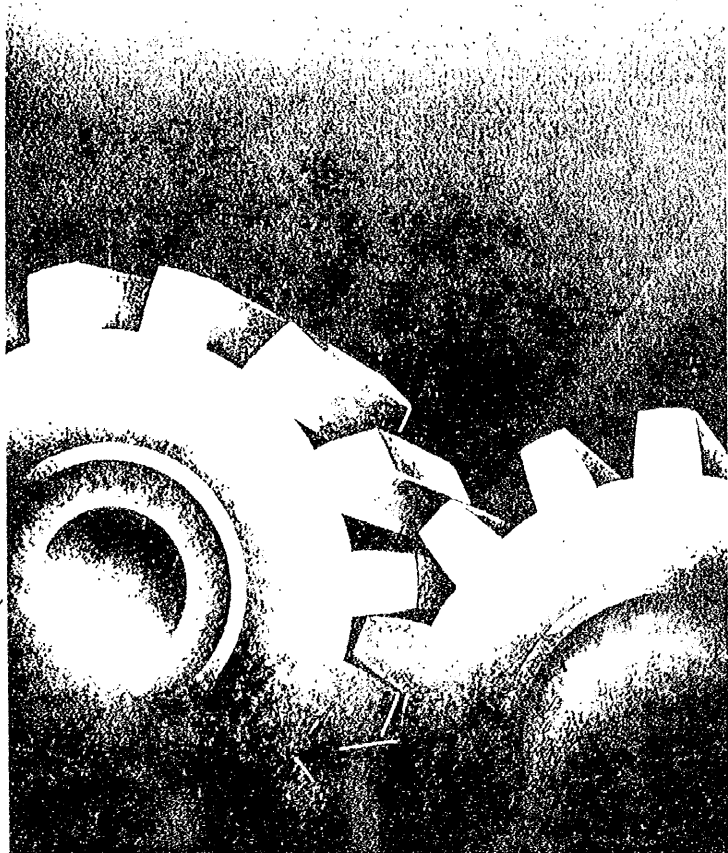
顛落蔣政權の動向

昭和十七年十一月十六日發
第五種郵便物認可
（毎週一回水曜日發行）

五錢

號九百第

設建の序秩新亞東



露光量違いにより重複撮影

週

報

第百九號

支那共産軍の實情

殷雪村の報告

戦後生活樹石運動

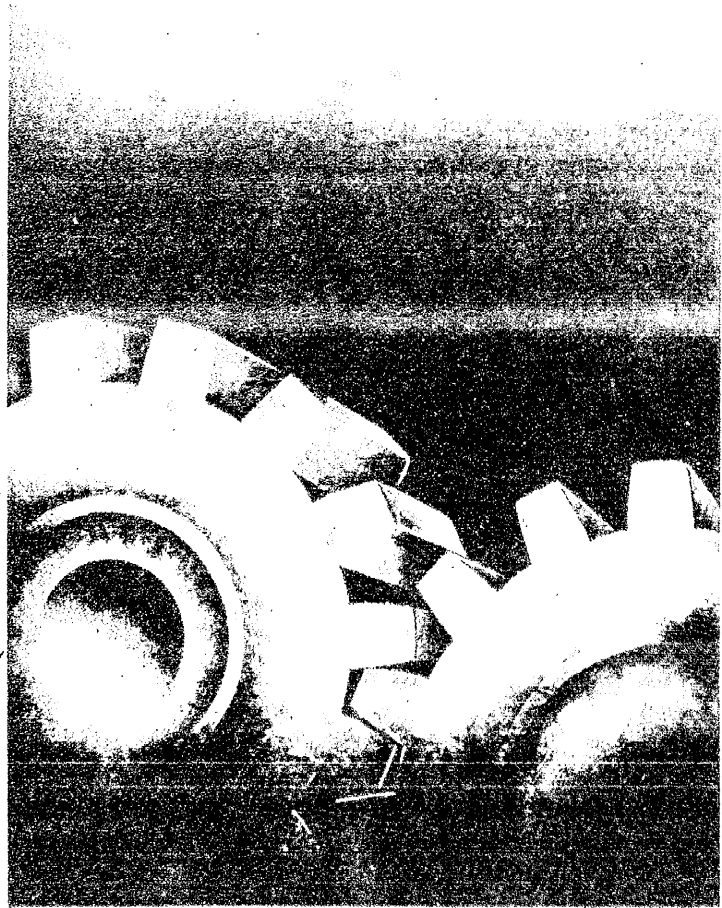
晋 州 政 略 概 観

豫省軍閥の動向

蘇省軍閥の動向

支那軍閥の動向

設建の序秩新亞東



露光量違いにより重複撮影

週

報

第百九號

支那共產軍の實情……………	陸軍省情報部……………(三)
殷賑産業勞務者の 銃後生活刷新運動……………	厚生省……………(九)
岳州攻略戦……………	陸軍省情報部……………(一六)
敵空軍殲滅戦成る……………	海軍省海軍軍事普及部……………(一八)
顛落蔣政權の動向……………	外務省情報部……………(二三)
◇最近公布の法令……………	内閣官房總務課……………(二九)
◇經濟戦強調週問……………	……………(三〇)

支那共産軍の實情

陸軍省情報部

支那の共産軍の實情はどうか、その將來は？敗殘の蔣政権の行方を見極め、また一面、この防共聖職の本來の姿を再認識するためにも、この問題について明確な知識を持つことは是非必要である。この一篇は次の五節から成つてゐる。

- 一、支那共産軍成立の経緯
- 二、共産軍の活動
- 三、共産軍の戦闘力
- 四、兵器彈藥の補充
- 五、支那共産軍の將來

一 支那共産軍成立の経緯

現在抗日支那の第一線に立つてわが軍に抵抗してゐる共産軍の前身は所謂紅軍である。

紅軍は今から十年前一九二八年(昭和三年)八月、朱德、毛澤東の手によつて結成されたものである。當時毛澤東は自分の郷里湘潭(長沙の南方)において農民暴動を起し、農民軍組織の必要を痛感し農民三千を以て一軍を組織し、井

崗山(江西、湖南に跨る高山)に據つた。そこへ范石生部下の一團長として羅石鎮に駐屯してゐた朱德が兵變を起し、部下の一團を率ゐて湖南南部から江西南部に遊撃して井崗山に來り毛澤東を合して出來たのが、後の紅軍の基幹部隊として世界的に知られた朱、毛紅軍である。

續いて彭德懷の第五軍、賀龍の第二軍、黃公略の第八軍、鄧錫勛の第六軍、許繼慎の第一軍、方志敏の獨立第一團等が出來、十二軍一團、兵數約七萬五千、銃器四、五萬挺の紅軍が成立したのである。

一九三二年には江西「ソヴィエト區」の中心瑞金(江西省東南方)に中ソ政府(中華ソヴィエト共和國臨時中央政府)が樹立された。紅軍はその指令に基づいて各ソヴィエト區間の連絡を圖り次第にその活動を強化した。

兵力も亦次第に増加し紅軍成立後一年にして約十五萬となつた。

赤化の勢ひ燎原の火の如く、その侮るべからざるに驚いた蔣介石はこれが徹底的討伐を決意し大軍を動員して紅軍の追撃を開始した。

これより有名な紅軍對蔣介石の抗爭、紅軍の大移動となり江西の赤區は崩壊し、その一部は該地方に残つたが、大部のものは非常な苦勞を嘗めながら、遂に西北の陝西省に移つたのである。蔣介石は依然剿匪の手をゆるめなかつたが、紅軍に對するソヴィエトの有形無形の援助と剿匪軍が却つて赤化されるなどのため剿匪は少しも進捗せず、逆に紅軍の地盤が益々強化するのみであつた。剿匪工作の成績の振はないのを氣にし出した蔣介石は、これが善後措置を講ずるため親ら西安に乗り出した。

そこで起つたのが西安事件である。

西安事件の落着に件つて政府軍の剿共工作は事實上全面的に停止せられ、共産軍は國民政府軍事委員會の指揮を受けることとなり、その軍費は國民政府から支給されることになつた。

當時中央紅軍は陝西省延安(西安の北方約七十里)を中心として該省中部北部一帯に位置し、賀龍部、徐向前部は山西省内に分散移動してゐた。當時の紅軍の兵力は陝西省北部に十萬内外、支那各地を遊撃中の共産匪、不正規軍等同じ

く十萬内外でその總兵力約二十萬であつた。

蘆溝橋事件が勃發するや、逸早く中國共産黨中央部は對日決戦をアチつた通電を各方面に發送したが、これと別個に朱德、彭德懷等の紅軍の首領は連名を以て二十九軍將領に對し同様趣旨の激動通電を發した。一方周恩来は蔣介石の招電に應じて廬山に赴き國防會議に参加した。朱德、毛澤東、彭德懷も相次いで南京に赴き對日共同作戰を協議した結果、國府は紅軍に軍費五百萬元を與へ、紅軍を山西、綏遠方面の抗日前線に出動せしめることになつた。

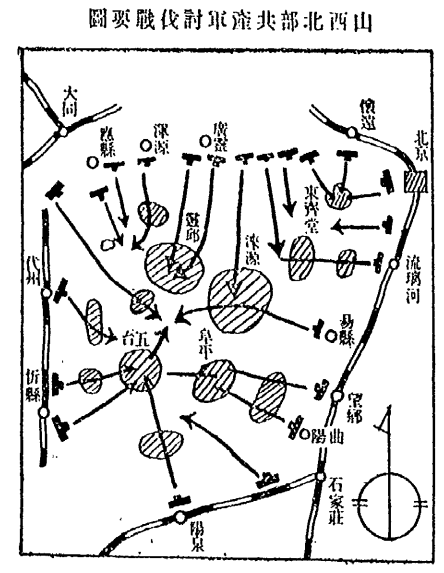
七月下旬早くも陝北紅軍約二萬はその根據地陝西北部から山西省境を經山して一路北進を開始し、綏遠、包頭を經て八月中旬察哈爾、蘇尼特右翼旗省境方面に進出し、又徐向前軍の一部は山西省西部一帯に分散侵入した。

八月二十二日國民政府は朱德、彭德懷を正式に國民革命第八路軍總、副指揮に任命したので、朱、彭の兩名は紅軍主力約五萬を八月末延安に集結し大舉東進を開始したのである。第八路軍は五師二十團に編成せられ、これにソ聯將校約二百五十名、モスコイ共産大學出身支那人有力黨員二十數名が配屬されてゐた。又その裝備は相當優良で自動火器も相當多く持つてゐたらしい。第八路軍は山西省内に進

撃するや、先づその先鋒遊撃隊である冀東紅軍遊撃隊、察南遊撃隊、冀魯邊區別動隊等を遠く河北、察南地區に進めた。

そして主力は九月上旬山西省原平驛に下車し、第五百五十師は大體において廣靈、靈邱、蔚縣方面に第二百二十師は寧武、神池、五寨方面に位置した。

平蕪關方面に現はれた部隊は、日本軍に對し相當抵抗を試みたが、結局日本軍に撃退され十一月中旬主力は再び陝北の舊根據地に遁入したのである。



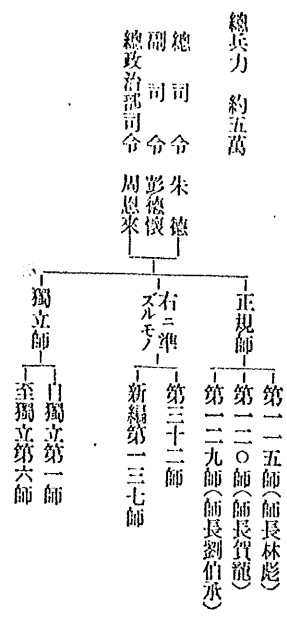
その後山西省内に残留した共産軍は漸次連絡を恢復し朱德、彭德懷はその司令部を五台山中(太原東北方山地)に定め、正規師三、これに準ずるもの二師、獨立師六及びその他の共産匪團を以て山西省、察南、晋北、京漢、京包沿線において専ら遊撃に任ずることとなつたのである。

右は共産軍の主力である第八路軍であるが、一九三四年十月紅軍が瑞金を捨てて大西遷を敢行した際に、その系流と分離して湖南、湖北、江南、浙江、福建、安徽、河南の諸地方に分散的に残存してゐた共産軍は、依然共産活動を繼續してゐたが、本年一月頃これを以て新編第四軍が編成された。同軍は葉挺これを指揮して七個の支隊に分れ、兵力七萬内外で目下江蘇、浙江附近に在つて日本軍の後方擾亂に狂奔してゐる。

しかし五台山中に巢食つてゐた八路軍に對し、わが北支軍は九月以來統一ある大々的討伐作戦を敢行し、十月下旬これを根こそぎ潰滅させたことは前號(週報第八號)において既に述べた。

従つて現在支那に在る共産軍の兵力は、その本據である陝西省内に約六萬、北支一帶に残存する共産系匪團約十萬、中支にある新編第四軍の約七萬總計二十數萬と推算し得る。

第八路軍ノ編成



備考

- 1 正規師ハ支那正規軍編制内ニ一連番號ヲ有スルモノデ第八路軍ノ基幹部隊デアル。正規師ハ兵力約八千名。
- 2 正規師以外ハ第八路軍獨自ニ編成セルモノ。

二 共産軍の活動

北支に在るものも中支に活動する共産軍もその系統は同じで、均しくソ聯邦共産黨の指導下にある中國共産黨の指令に基づいて行動してゐるのである。ソ聯邦の新聞を讀んでゐる人は誰でも知つてゐるが、新聞の記事には必ず支那共産軍が勇戦奮闘してゐることが大々的に宣傳されてゐる。一事によつてもその間の事情が明らかである。(下は後頁参照)

共産軍の活動を觀察する前に彼等の眞意を探つて見るこ

とが必要である。

彼等共産軍の主腦者は次のやうな宣傳をしてゐる。



第八路軍の機關銃射(關田タツヲ)

「支那軍の編成裝備は日本軍より劣つてゐる。特に兵器の精銳な點においては到底比較にならない。しかし我々は、結局において日本軍に勝たねばならぬ。我々は日本に勝つ自信を十分持つてゐる。それには遊撃戦法によつて彼等日本軍を困窮させ疲勞させて了ふに限る。日本は目下財政的に困つてゐる。彼等は如何に緊縮するも我等の長期抵抗には財政的に堪へ得られないのだ。過去一年間の戦ひによつて我々は只少數の鐵道と都市を失つたのみで中國の廣大な土地と人民とは依然吾人の手中に在るのだ。」

蒋介石もまた遊撃戦による日本軍の後方擾亂を重視して、南京陥落後各地に遊撃隊を派遣して活動させてゐる。

併しながら、仔細に觀察すると兩者の眞意には相違がある。中國共産黨の幹部は長期戦によつて日本も支那もともに疲弊することを希望してゐる。そして支那民衆が疲弊してゐる處に赤化工作を巧みに施し、赤色地盤を逐次擴大強化して行くことを考へてゐるのである。國共合作によつて國民政府の中に喰ひ入つた共産系分子は常に大衆の動員、訓練及び武装化を終始一貫主張してゐる。そして、もし共産黨の主張のやうに民衆が武装され動員されれば、その結果は共産勢力の擴大、赤色地盤の強化は火を踏るよりも明らかである。それはやがて國民政府に代つて共産黨が支那を支配する前提であるから老獪な蒋介石は、今日まで遊撃隊を重要視しながら他方共産軍の手による遊撃隊の編成増大を極力阻止してゐた。

それだから共産軍は、中國救亡のため戦ふと稱しながら實際は自己保身に汲々として日本軍には巧みに逃げ廻つてゐる。よほど優勢で有利でない限り正面から積極的に日本軍に抵抗するやうな馬鹿なことはしない。

共産軍の活動は前に述べたやうに、寧ろ民衆が相手であ

る。彼等の所謂政治工作である。共産軍にはいづれもソ聯軍隊と同様に政治部がある。共産軍はその踞居地域に自ら縣政府を樹立しその政治部員を以て縣長に任命し例の宣傳工作によつて人民を煽り上げるのである。

人民に喰ひ入つて赤色地盤を擴大することが目的であるから共産軍の兵に對してはなるべく民衆を愛撫して今迄の支那兵のやうなことをするなと教へてゐる。従つて中には深謀遠慮的行動をなし民衆の信頼を得てゐるものも少なくないといふことである。しかし、やはり人民に對し結局は謀求を事としその怨嗟の的となつてゐる情報が多い。

何分文化の程度の低い奥地の支那民衆に對し御手のものアチ宣傳をやるからその効果は相當なものである。日本軍の眞價をまだ知らない地方の所謂土民は、今でも中國軍の大勝利を信じ抗日意識に燃えてゐるのである。

北支方面では屢、財政擾亂といふやうな藝當もやつてゐる。新政權の行政を阻止したり、皇軍に歸順した剿共軍の切り崩し、地方土匪軍の懐柔等にも相當成績を上げてゐる。

思想戦工作としてわが日本軍に對し種々な宣傳をやつてゐる。山西方面の掃蕩戦にはわが軍も特に戰場宣傳戦を重視し宣傳班は大いに活躍した。

(6)

三 共産軍の戦闘力

共産軍が日本軍と堂々戦つたのは事變當初の山西北部の山岳戦だけである。ソ聯赤軍の分家であり、抗日精神作製の本尊である支那共産軍の主體第八路軍は、平滬關附近萬里の長城の線でわが日本軍なるものと初めて顔合せをしたのである。早速八路軍全勝の報は南京にモスコに飛んだ。南京では連日爆竹騒ぎ、モスコでは英雄第八路軍の大々的報道振り、ソ・支兩國ならまだしもロイテル、アパス等の外國通信もこれを本國に傳へた。英雄第八路軍のその名は一躍世界に知られた。

しかし平滬關における相當の抵抗も、結局わが軍旗の進む所には敵でなく忽ち撤退せられ、五台山中に逃げ込み、その一部は忻口鎮の天險に據つて頑強な抵抗を試みたが、これ亦破れ太行山脈中に逃げ込んだのである。

かくて彼等は皇軍の眞價を味ひ、漸くこの頃から遊撃戦術を演説し始めた。

要するに第八路軍なるものも宣傳ほどのことではない。支那中央軍よりは宣傳戦は上手であらうが戦闘力は寧ろ低いぐらゐであらう。

遊撃戦又はゲリラ戦なる言葉は事變以來新聞紙上を賑はしわれくの記憶を深からしめた。「ゲリラ戦」とは元來スペイン

語であつて、擾亂戦術とか奇襲戦法と言ふやうな意味である。シベリア出征當時バルチザン戦が流行したのと同様な性質のものである。遊撃戦術の兵學的説明は既に週報第六十七號において解説してあるからこゝには省略する。

彼等の最も優れた點は一般支那兵の長所である仙人生活に慣れてゐることである。ちやうど昔の雲助どものやうに鈴鹿山や箱根八里のやうな所に本據を構へて熊と同じやうな生き方をしてゐるのである。

外國人の視察談によれば、陝西の本據延安の總司令部はわが飛行隊の爆撃を恐れて土窟生活に都合のよい地形に住んでゐることである。射撃と夜間の訓練を相當重視してゐるのでその點輕視することは禁物である。

又各方面に分散してはゐるが連絡には努力してゐる模様だ。無線通信連絡もソ聯から教はつてやつてゐるやうで、天津、上海方面から出た共産黨の指令は山奥にも通じてゐる。

(7)

遊撃戦術による皇軍占據地域内の治安擾亂工作は相當煩さいことではあるが、支那軍首脳部がこの戦法による長期抗戦の勝利を信じてゐることは情けない。

八月十七日のノースチャイナ・ヘラルド紙の特派員は、ゲリラ戦術の効果のあがらぬ程度について述べ、漢口が支

へられずとすれば、かやうな抗戦手段によつて支那を奇蹟的に救済することを期待することは決して賢明ではなからうと結んでゐる。

四 兵器、彈藥の補充

共産軍の特色は政治工作宣傳戰であるのであるが、武器、彈藥がなくては仕事にならない。彼等はその占據地區内諸處に火藥製造工場や兵器修理工場をもつてゐる。先般わが軍の山西省五台方面の大掃蕩戰で、この種の工場や彈藥庫を數ヶ所押へたのである。

陝西方面の共産軍に對する武器その他軍需品の補給は漢口兵工廠から行ふ約束で、初めの中は少しは實施されてゐたやうであるが、最近全く絶えてしまつてゐる。陝西省内では西安と綏德とに兵器修理所と彈藥製造工場がある。この兵器彈藥が陝西省から黄河を渡つて山西省を始め北方方面の共産軍に補給されてゐることである。

ソ聯邦の對支援助は支那共産軍の強化を以て第一義としてゐる。これは蔣政權の勢力が衰へるに従つて露骨になるであらう。漢口陥落後のソ聯邦の對支武器援助の如何は共産軍勢力の消長に關する問題である。

五 支那共産軍の將來

國際共産黨は口を開けば、資本主義國、帝國主義國の打倒

を目的とするものであるといふが、實際はスペインとか、支那とか、メキシコとか、チエッコとか、弱國の赤化による勢力擴張以外に何物もない。

支那とソ聯とはとよく似た國である。がしかし國民性は必ずしも一致してゐない。蔣介石は支那事變の窮狀を打開するため支那共産軍を利用しようとし、ソ聯は支那事變に便乗して支那の赤化を圖らうとしてゐる。今日まで兩者はともに慎重なる態度を以て接觸してゐたが、支那の中原武漢が今や皇軍の手に歸した今後、國民政府の生きる道は諸外國の援助、就中ソ聯の武力援助に俟つ以外には良い術はない。蔣介石が漢口逃亡の際共産黨の首領連中と一緒飛行機に乗つてゐる一例によつてもその間の消息がわかる譯である。

天下に空名をさせた第八路軍も皇軍の掃蕩によつて全く鳴りをひそめてしまつた。續いて行はれるわが討伐戰で一應は北方方面の共産軍も片付く日が来るであらう。しかし、潜行的で執拗な特性からして決して油斷が出来ない奴である。皇軍の治安確保と新政權の反共工作の強化とが今後われわれに課せられた重大事業である。

股賑産業勞務者の

銃後生活刷新運動

— 銃後生活刷新班の提唱 —

厚 生 省

廣東攻略につゞく武漢三鎮の陥落によつて、今次事變は所謂長期建設の新段階に入つたのであるが、この新態勢に應じて、克く聖戰有終の美を擧げるためには、銃後國民各自が文字通り「勝つて兜の緒を締め」、愈々堅忍持久、不屈不撓の旺盛な精神力を以て、これを日常生活に具現し、物心兩面に於ける生活の刷新を斷行することが極めて必要である。時局によつて収入の増加を來した所謂股賑産業關係者は特にその必要があるわけで、このほどこれら股賑産業勞務者の銃後生活刷新の具體的方策を樹立し、その物質的、精神的兩方面にわたる銃後生活全面の一大刷新を圖ることとなつたのである。

一 生活刷新の必要性

今次事變の勃發するや、全産業勞働者は、聖戰目的達

成の協力について萬遺憾なきを期するため、舉國一致體制下に於て、銃の代りにハンマーを以て勤勞報國にいそしみ、各自の職場に於て所謂銃後の守りを堅くしてゐることは、嘗て見られないほど高潮に達してゐる。殊に軍需勞務者は殘業、夜業等の勞働も敢へて厭ふことなく、汗と油の結晶によつて、軍需資材の供給を確保し、國防産業の銃後戦士としての任務を果してゐることは、前線將兵の勞苦にも譬ふべきものがある。

しかし、仔細にこれを検討してみると、時局によつて股賑を示しつゝある産業、中でも軍需産業方面に於て所得の著しい増加に任せて、動もすれば、その生活に好ましからざる傾向を招來してゐる事例を見出すのである。即ちその生活がともすれば奢侈放縱に流れ、収入増加の大部分を不必要な交際、酒色のために費消し、高額な賃

銀を得ながら、尙ほ且つ負債に苦しみつゝあるものも少くない。また農山村出身の青年獨身勞務者たちは、遼かに比較的高額の賃銀を得たため、知らず／＼の間に遊里の巷などに足を踏入れ、その將來ある健康と身體とを害ふに至る者も屢々見出されるのである。

股販産業、中でも軍需産業勞務者は事變の遂行に直接關係ある國防産業に従事してゐるものであるから、報恩感謝の態度の下に、寧ろ他の勞働者に率先して、銃後産業報國の獻身的努力を致すべきであるにかゝはらず、かやうな不健全な生活がなされるやうなことは、本人自身の健康を損じ、生活の向上を阻止し、甚だしきに至つては遂にその生活を破壊に導くことさへあるのは勿論であるが、事變進展中の非常時局下に於て、それよりも尙ほ憂ふべきは一般思想上に及ぼす影響である。

即ち、物資動員計畫遂行のために不振産業方面に於ては、今や、失業、轉業、事業縮小等を餘儀なくされるものが漸く多くならうとしてゐる。ところがその反面では、この時局のために、收入の増加を來した者が奢侈に流れ、所謂「札ビラを切る」式の生活をなすやうでは、これら不振産業關係者に對し思想上の悪影響を與

へ舉國一致體制に動搖を與へる虞れないとはいへない。

いふ迄もなく、近代戦は國家の總力を擧げて戦ふ總力戦、殊に一國經濟の耐久力如何による經濟戦が勝敗の重要な分岐點となる。これがために物資の消費節約、物價の抑制、貯蓄の奨励などの非常時經濟國策が強化されつつあるが、これら非常時國策の圓滿なる遂行を圖るためにも、銃後國民の生活刷新、殊に所得の増加した股販産業勞務者の銃後生活刷新を講ずることは是非とも必要である。

敵の抗日據點、廣東及び武漢三鎮の攻略は、今次事變所期の目的達成上重要な一段階を劃するものであることは勿論であるが、今後支那奥地に蠢動する蔣政權の徹底的潰滅を圖る他面に於て、廣大な占領地域に於ける開發建設を圖り、帝國の冀求する東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設のためには、國民は今後あらゆる困苦に堪へ、この新事態に應じた國民生活全分野に於ける改新を斷行せねばならない。これら諸般の情勢を思ひ合はすとき、銃後生活刷新の愈々緊要なことが痛感されるのである。



操 體 業 産

二 銃後生活刷新の指導精神

今次の股販産業勞務者銃後生活刷新運動の指導精神は、あくまでも「銃後産業報國の使命達成」にあるのである。對策樹立の動機は、股販産業勞務者の消費生活が漸次不健全に向つて來たといふことに存するのであるが、樹立された對策そのものは、單にそれを矯正し、貯蓄の額を増加するといふだけではなくて、どこまでも物心兩面に於ける生活全面の刷新を斷行して、銃後産業報國に遺憾なからしめようとするものである。

それ故に、この運動は一個の精神運動に終ることなく實生活に具現實踐せしめる實踐運動である。そして個人の名譽のためのみならず、國防産業に従事する軍需勞務者乃至は股販産業勞務者全體が、團體としての名譽にかけて實生活を刷新することを企圖するものである。このためには勞務者のみならず、その指導的地位にある事業主とその下にある職員をも包含して、これらが一體となつて、所謂國防産業に従事する銃後戰士としての堅き矜持の下に、自肅自戒以て銃後産業報國の途を全からしめんとするものである。従つてまたこの運動は、國民精神總動員運動なり、産業部門に於けるその一翼とし

ての産業報國運動を一層充實し強化するための具體的實踐運動でもある。

三 銑後生活刷新の具體的方策

以上のやうな必要性と指導精神に立脚して立てられた股販産業労働者銑後生活刷新の具體的方策の概要は次の如くであるが、茲に附言したいことは、今回の銑後生活刷新は、その根本に於て、單に上からの注入的、一方指示的の運動に終らしめることなく、下から湧然と盛り上つて来る自發的運動ならしめるために、労働者各自の「自發性」と個々の事業場の労働管理、経営方針等、その實情に即せしめるため「個別的適合性」を尊重し、本運動の充分なる徹底を期したることである。それらは次の具體策の説明に依つて自ら判明するものがあらう。

(一) 産業人の精神的自覺と事業主の率先垂範

銑後生活刷新を實行するには、事業主、職員、労働者全員が一體となり、深き時局認識の下に、精神的自覺をなすことが基本要件である。即ち銑後生活刷新の成否は教育の如何にその根柢を置くものであるから、産業人に對する精神訓育の強化、教育の向上に重點を置き、特に

指導的地位にある事業主と後に述べる所謂銑後生活指導者が、これに對して燃ゆるが如き熱意を持つて率先して範を垂れることが必要である。

(二) 事業主として行ふべき銑後生活刷新實行要目

銑後生活刷新を空宣傳に終らしめることなく、各事業場に於て實行させるために、地方廳(鑛山については鑛山監督局)が、その事業場に於て事業主として行ふべき銑後生活刷新の實行要目を事業主から徴してそれに指導啓勵を加へるやうにしてゐる。實行要目についてはその事業場の實狀に即して、事業主の自發的創意に於て、適切な要目を定めることを期待してゐるのであるが、當局より示してゐる事例を掲げると左の通りである。

- (1) 作業前或ひは體操その他集合の際、宮城遙拜を行ふこと。
- (2) 労働者の時局認識銑後生活刷新の目的のために、少くとも毎月一回事業主若しくは主腦部がこれについての講演をなし、又は外部より適當な講師を招聘して行ふこと。
- (3) 賃銀支給日に、各労働者に對し、必ずその収入は勤勞報國の結果得たものであるからこれを浪費せず貯蓄その他有效な用途に振向けるやう訓話をする。
- (4) 銑後生活刷新の精神を作興するため、特に「銑後生活刷

新班」の班長に適任者を得るために宿泊講習のやうな「行」を中心とする特別の教育機会を設けること。

- (5) 貯蓄奨励、家庭聯絡の一助として獨身労働者の収入を両親又は保護者に事業主より通知すること。
- (6) 労働者の豫算生活の實踐方法(例へば家計簿の記載奨励)を指導すること。
- (7) 慶弔の場合の贈答の節減合理化、儀禮の刷新に關する適當な方法(例へば各個人の贈答を廢して團體的贈答とし或ひは式服の代用としての儀禮章の佩用)を指導すること。
- (8) 交際のための飲食贈答を抑制せしめるやう指導すること。
- (9) 物資の消費節約と物資の活用(例へば被服の更生及新調の見合せ、廢品の回収、代用品の使用)を指導すること。

(三) 銑後生活指導者

事業場に於ける銑後生活刷新の實效を擧げるためには、前述のやうに、事業主自身がこれについて熱意を有し率先垂範の實を擧げることが必要であり、これが一方法として實行要目を徴するのであるが、事業主は事業經營者であつてそのみに没頭してゐることを得ない場合が少くない。このために各事業場毎に、成るべく「銑後

生活指導者」を設置して、その事業場に於ける銑後生活刷新に關し直接指導の責に任ぜしむることにしてゐる。

そしてこの銑後生活指導者には工場長、労働課長等労働者を統率して行くべき地位にある適當な者を以てこれに充てるのである。

(四) 銑後生活刷新班

以上は事業主側よりの銑後生活刷新について述べたのであるが、各労働者の銑後生活刷新については、單に事業主等主腦部よりの一方的の指示にまつことなく、労働者の自發的熱意を喚起するため、なるべく事業場内に「銑後生活刷新班」を組織せよとするものである。その組織、運営については大體左記に據るのがよいが、形式に流れないやう注意するは勿論、その事業場に於ける労働管理、経営方針その他の實狀に即し、充分その實效を擧げるやう豫じめ充分配慮することが必要である。

組織

工場、鑛山等事業場内に於て、全労働者を適宜の標準によつて若干名づゝの「銑後生活刷新班」に分ち、各班に班長を置くのであるが、その組織に當つては作業に於ける「組」、或ひは「伍」等作業編成上の區分と遊離しないことが必要である。そして前述した「銑後生活

指導者」は各刷新班を統轄して、全體の調和とその指揮統制に當るのである。なほ事業場によつては、既に従業員を班別組織とし、事業場内又は事業場外に於ける相互の指導誘掖を圖るなど「銑後生活刷新班」と類似の組織を有するものがあるが、かういふところは新たに「銑後生活刷新班」を組織する必要はないから、それらの既設組織を擴充強化して自發的生活刷新の目的達成を圖るべきである。

運 營 各銑後生活刷新班では、班長を中心として班員の銑後生活刷新に關する實行要目の中合せをなし、その實行について相互に切磋琢磨し、だん／＼に銑後生活刷新の實を擧げて行く。どんな實行要目の中合せをすべきかについては、何等の指示をなしてゐないのであるが、これは自發性を尊重し、あらゆる廣い分野から實行要目を選んで、適當に實踐するやうにしたい念願からと、事業主の施設する實行要目参考事例がその僱務者の銑後生活刷新實行要目となり得るものが多いからである。尤もこの中でも貯蓄は極めて重要なことであるから、實行要目中に必ず各自の貯蓄實行額の中合せを包含せしめるのであるが、これについては後述しよう。

中合事項は中合せの都度、これを「銑後生活指導者」に報告し、銑後生活指導者は随時(少くとも毎月一回)各班長の全部又は一部づゝを會同せしめて、中合事項の實施狀況の報告を聴取して常に指導監督を加へる。かうして組織的、繼續的に、しかも自發的に勞務管理と不即不離の關係に立つて銑後生活刷新の効果を擧げんとするものである。また事業主は銑後生活刷新班の成績顯著なものを適當の方法で表彰し獎勵を加へるのである。

尚ほその事業場に「産業報國會」があるときは、銑後生活刷新班の運營は、その一部の事業として行ふことが適當であるから、これをして行はしめることとなつてゐる。

(五) 貯蓄獎勵の徹底強化
貯蓄は現下重要な非常時國策の一つであり、銑後生活刷新についての極めて緊要な事項であるから、次のやうな方法で、その徹底強化を圖る。

(イ) 貯蓄の實效を擧げるためには、やはり事業主がこれについて横溢した熱意を持つことが必要であるから、このために地方廳(鑛山については鑛山監督局)に於て、各事業主より事業場に於ける貯蓄獎勵

の計畫を徴して、爾後適宜その實行狀況の報告を求めるとともにその實地調査を行ふ。

(ロ) 貯蓄についても、事業主自身が率先垂範の實を擧げるとともに、各勞務者について個別指導を行ふ。

(ハ) 各銑後生活刷新班に於ては、前述の如く、班長を中心として班員の各人別貯蓄申合額の決定をするのであるが、その申合額は「國民貯蓄獎勵局國民貯蓄規約例其の一別表第二表」(事變前に比し所得の増加したる者に適用すべきもの)に定めてゐる率を標準とし、これに殘業手當その他臨時収入の多寡、負債、病氣等各自の現實の貯蓄力を參照して、なるべく多額の貯蓄をするやう措置する。

(ニ) 職員も勞務者同様の趣旨によつて必ず貯蓄を實行する。

(六) 福利施設の擴充整備
各事業主はこの際、各勞務者の銑後生活刷新に資するための福利施設を一層擴充整備してほしい。そして如何なる施設をなすべきかは事業主の創意に一任してゐるのであるが、當局より示してゐる施設の事例を參考までに

掲げて置かう。

- (1) 貯蓄獎勵のため貯蓄の成績優良なものを表彰すること。
- (2) 拂戻制限があるために充分なる貯蓄を躊躇することがあるから、これを防止するために勞務者の不時の用途に充てるための適當な金融方法を講ずること。
- (3) 勞務者の住居が住宅難のために狹隘であり、或ひは不衛生である場合は、往々にして浪費を誘發する虞れがあるから極端な住宅難を緩和するための寄宿舎、住宅の建設等をなすこと。
- (4) 餘暇善用のための體育修養や健全なる慰安施設、例へば運動場、武道場の設置、登山ハイキングの實施、圖書室の設置等をなすこと。
- (5) 消費の合理化施設、例へば廉賣、共同購入、負債整理、工場食の改善、共同炊事場の設置等をなすこと。
- (6) 家庭の主婦のための施設、例へば眞に勞務者の家庭の實情に即する料理、裁縫の講習會等を行ふこと。

岳州攻略戦

陸軍省情報部

その後判明せる武漢攻略戦の綜合結果左の如し (大本營陸軍部八日午前十一時二十分發表)

河南省方面 (八月廿一日廣州出發より概ね十月中旬迄)

敵遺棄屍體四萬八千五百七十

主要鹵獲品 重砲五九、野山砲百二十一 (彈藥六、百廿四)、對戰車砲二十、迫撃砲四百十八、步兵砲八、重機關銃五十四、輕機

關銃四百三十七、小銃六百十七、同彈藥六十八萬五千八百

我が戦死 (八月下旬より十月下旬迄) 一、千六百四十七

揚子江方面 (七月下旬九江上陸より概ね武漢攻略迄)

敵遺棄屍體十萬二千八百、俘虜三千七百

主要鹵獲品 重砲四十一、野山砲十 (彈藥九千九百五十)、高

射砲十四、對戰車砲七十六、迫撃砲六十四、步兵砲九十四、

重機關銃三百十三、輕機關銃八百、小銃一萬四千八百二十、

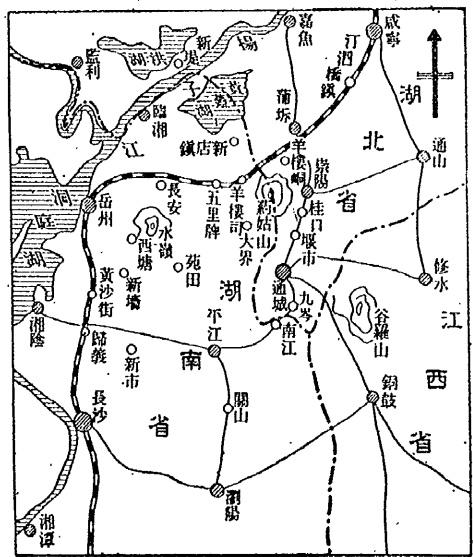
彈藥七百六十二萬

我が戦死 (七月下旬より十月下旬迄) 四千五百六

右合計 敵遺棄屍體十四萬三千六百五十、俘虜五千二百七

十 鹵獲品 重砲一百、野山砲百三十一、高射砲十四、對戰車砲九

十六、迫撃砲四百八十二、步兵砲百二、重機關銃三百六十七、
輕機關銃千二百三十七、小銃一萬五千四百三十七、同彈藥八
百二十九萬五千八百
我が戦死 六千五百五十三



(16)

二 江南地區

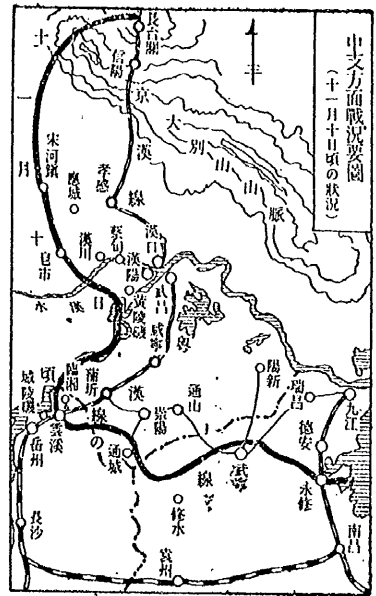
去る七日漢口附近を出發、揚子江上を遊江中であつたわが一部隊は十日岳州東北方約三十軒臨湘附近兩岸地區に敵前上陸を敢行した。又有力なる部隊は更に十一日朝城陵磯(岳州下流二里附近)に上陸し、粵漢線方面の作戰部隊と協力して岳州附近の敵を攻撃中。

粵漢線方面及びその東方通山—崇陽—通城方面から敵を追撃中のわが軍は、隨處に敵の抵抗を破摧しつゝ岳州、長沙方面に前進中である。即ち、粵漢線方面に於ては七日新店鎮對岸の敵陣地を突破し、九日岳州東北方約二十軒雲深附近に達し、引續き前進を續行、十一日午後遂に岳州を占領した。

その東方地區を追撃中のわが軍は六日崇陽を、九日には通城を占領引續き前進中である。

衡州飛行場攻撃

十一月七日わが飛行部隊は衡州飛行場(長沙南方約四十里)に敵機を求めて攻撃した。七日前十一時頃、衡州飛行場に到れるも空中に敵機を見ず、地上にあつた敵飛行機十六機を破壊し殲滅的效果を収め、全機無事根據地に歸還した。



中支方面戰況要圖 (十一月十日頃の状況)

中支方面

一 江北地區

京漢線以西以東地區とも依然殘敵掃蕩戦が行はれてゐる。京漢線以西に於てはわが軍は更に西方に向つて敵を追撃してゐる。すなはち十一月四日、わが一部隊は應城西方約六里に在る皂市を、五日頃德安(安陸)西方約十里宋河鎮その北方隨縣等を占領、引續き前進中である。

(17)

敵空軍殲滅戦成る

海軍省海軍軍事普及部

廣東並びに漢口陥落以後、珠江遶江作戦と揚子江遶江作戦は依然として續行されつゝあり、長江を遶る軍艦隊は既に漢口を距る百三十哩の地點に達し、岳州を指呼の間に望んでゐる。珠江水流並びに支流に於ては數百の機雷を掃海して水路の啓開に努むる有様である。

一方海軍航空部隊はいよ／＼全支をその鵬翼下に收め、今や敵空軍殲滅戦成り、殘機を撃つもの僅かに百數十機を算するのみとなつた。もはや敵空軍の再建はその必死の努力にも拘らず絶望的と見てよい。

そも／＼航空戦は海戦とも陸戦ともその趣を異にする。海戦の勝敗がたゞ一回の決戦に依つて決せらるゝ事情とも異り、又陸戦に見るが如く、兵力の補充が可能である限り大會戦が屢々繰返さるゝ状況とも異り、恐らくその中間にあるのではないかと考へられるのである。

凡そ航空戦の場合は、戦争の立上りに於て敵に一大痛撃

を與へ得た側に勝利が存するといひ得るのである。空軍の補充再建必ずしも不可能であるとはいへないが、一敗地に塗れた空軍が、短期間にその再建を企圖することは、飛行機生産能力の點に於ても、飛行士補充の點に於ても、至難の業であるといはねばならぬ。況んやその再建途上に於て敵から息をもつかぬ猛攻撃を受け、しかも飛行機生産能力と人員補充の點に缺陷がある場合、再建が不可能であるのは當然である。

今次事變勃發するや、わが海軍航空部隊が帝國海軍の制海の下に一齊に起ち上り、敵空軍を撃破して一大打撃を與へたことは、爾後敵空軍の再建を絶望的ならしめ、その潰滅を速かならしめた要因であつたといひ得る。

今や海軍航空隊のみに依つて撃墜爆破した敵機の數は、千四百機を突破するに至つたのである。そして支那には飛行機を生産する能力無く、ひたすら援蔭の列強からの輸入

に依つより外なく、人員の補充に至つては、もはや手の下しやうも無い有様でこれ亦外國の飛行士に頼らなければならぬ状況である。

スペイン戦線が列強の飛行機の試験場であるといはれてゐるが、支那大陸の空も同様各國飛行機の能力試験場とした觀がある。それは支那空軍が英米佛ソ伊等各國のサンプル飛行機を寄せ集めたものであるからである。

そしてスペイン戦線で功績を立てて及第したソ聯の優秀機イ十六型の如きも、わが海軍航空隊のテストに會つてこちらの試験場では落第させられて了つた。その他各國が精銳を誇つた飛行機の性能の程も、よく検討させて貰つた。その上にソ聯飛行士の御手並まで拜見に及んで大いに参考となつた次第である。

かくて今や支那空軍殲滅戦は成就された。蓋し功の成るは成るの日に成るに非ず、必ず由つて來る所あり、我等はこの得難き實戦の経験と合せ考へて、帝國海軍の自主的軍備の一翼たる海軍航空隊の充實強化に邁進しなければならぬ。

大本營海軍報道部から去る十一月九日午後六時三十分次のやうに航空戦の輝奕たる戦果が發表された。

主要航空戦の成果

月日	地名	確獲機	確獲機	地上爆破	地上爆破	計
七、四	南昌	三七	〇	〇	〇	三七
七、五	南昌	〇	〇	〇	〇	〇
七、一六	漢口	一〇	〇	〇	〇	一〇
七、一七	南昌	八	〇	〇	〇	八
七、一九	漢口	二七	〇	〇	〇	二七
八、一	漢口	〇	〇	〇	〇	〇
八、三	漢陽	〇	〇	〇	〇	〇
八、六	衡陽	一四	〇	〇	〇	一四
八、一八	南雄	一七	〇	〇	〇	一七
八、三〇	昆明	七	〇	〇	〇	七
九、二八	梁山	七	〇	〇	〇	七
十、二二	梁山	五	〇	〇	〇	五
計		一三三	〇	〇	〇	一三三

被我飛行機損害比較

時期	確獲機	地上爆破	累計
六月末日迄	四三九	四五九	一、〇一四
七月末日迄	七六	七八	一一八一
八月末日迄	六九	八二	一二二二
九月末日迄	一三	二九	一三三九
十月末日迄	一三	二七	一四一四
總計	六一〇	六九五	一、四一五

航空隊

十一月五日

(一) 海軍航空隊の一部は宜昌(江西省)、沙市(湖北省)方面に集結する敵大部隊を發見し、これを攻撃潰亂せしめた。又一部有力なる部隊は遠く敵後空軍の重要基地で最もその防衛に努めてゐる梁山飛行場(四川省)を襲撃して、格納中の大型機三、小型機二を爆破し、又挑戦せる敵戦闘機群約二十機と壮烈な空中戦を交へ十五を撃墜し、三を不時着を餘儀なくせしめた。

十一月六日

(二) 中支方面崇陽攻撃隊は平江南京橋梁を大破し、その附近の敵據點部落及び陣地等爆撃、豐城攻撃隊は南昌と豐城間に於て列車十數輛を爆破した。又長興宜昌飛行場上空に現れた一部隊は火藥庫その他建物を爆破して多大の戦果を収めた。

十一月八日

我が部隊は左記各飛行場を攻撃赫々たる戦果を収めた。
〔芷江〕 山上少佐の率ある一隊は敵戦闘機十六機と激烈な戦闘を交へ、敵機を撃墜した外、地上の敵機四機を爆破した。この

中支方面

十一月五日

前日に引續き上流に進撃し多数の機雷を處分しつつ、水口を啓開、密陽より十二漚上流の桑家市まで進出した。

十一月六日

湘江部隊は隨處に機雷原を突破し、その先頭は遂に漢口を距る數十漚の地點、寶塔洲に達した。

十一月七日

本早朝、更に機雷原強行突破を敢行し、その先頭はすでに漢口を距る九十漚の赤壁の下流に達した。先頭隊の一部は赤壁對岸に於て機雷を投下しつつある大型砲克一隻を認め、直ちにこれを砲撃沈没せしめた。處分した機雷數は實に約百五十箇に達した。

十一月九日

湘江部隊先頭は螺山上流に到達して岳州を指呼の間にのぞんでゐる。

南支方面

十一月八日

珠江海軍遊撃隊は江岸の敵を掃蕩し、その一部をもつて機雷の掃掃を續行して、戦果を擴張しつつある。

十一月二日

海軍陸戦隊は漢口警備の重責に任じ市内の治安の維持を確保

戰鬥に於て、我が有馬機(機長有馬二等航空兵曹)及び谷機(機長谷二等航空兵曹)は勇戦奮闘の末、敵陣に突入自爆した。
〔衡陽〕 棚町少佐指揮のもとに急襲、地上にあつた十二機を爆破した外、飛行場附屬及び高射砲陣地を爆破、全機無事歸還した。

〔成都〕 安延少佐の指揮する攻撃部隊により果敢なる低空爆撃を敢行し、地上敵機八機を爆破した外、戰鬥機五機と交戦し二機を撃墜せしめた。又一部は重慶飛行場を襲ひ地上の敵機二機を屠つた。

〔成都西方〕 菅久少佐の率ある別働隊は、成都西方飛行場に現れ敵戰鬥機五機と交戦、その一を撃墜し地上機及び大小建物數棟を爆破した。熾烈な敵銃砲火を受けたが全機無事に歸着した。

南支方面に於ける航空隊は内陸の不良な天候を冒して寶安、連平、英德及び翁源方面の偵察攻撃を實施、敵陣地倉庫群に多大な損害を與へた。又中支方面の海軍航空隊と策應して南支方面部隊は大部を擧げて長興衡陽の敵空軍を攻撃し飛行場及び附近施設を爆撃した。

十一月九日

再度衡陽を襲撃するとともに、一部は寧國附近の敵を攻撃、これを潰滅せしめた。尙ほ他の有力な一部は浙贛線の交通路を攻撃して多大の損害を與へた外南昌南東方の倉庫群を攻撃した。

十一月八日

陸戦隊の一部は、午後三時四十分、陸軍部隊と協力し新堤市内を掃蕩し敵艦水櫃を占領した。

寫眞週報

十一月十六日 (第四十號)

定價 十錢

目次

☆戰捷祈願予りレ

國民精神作興體育大會

伊勢神宮から明治神宮まで聖矛は東海道を上る。

☆日獨伊防共協定一周年記念國民大行進式

☆隻脚に踏む更生のペダル

自分らもこんなに丈夫になりましたと白衣の勇士の自轉車行進

☆漢口に拜す明治節(嚴肅な現地祝賀式)

☆公休日を御破算(商店法實施報告)

その一……商業青年講演會に出席

その二……一日楽しく組合の運動會

その三……お母さんと二人で

☆讀者のカメラ

寫眞週報



顛落蔣政權の動向

外務省情報部

蔣政權の一落千丈

蔣介石政權は武漢及び廣東（廣州市）を失うたことにより、どんな地位に頓落したかといふことを、地域及び人口の上からいへば、土地の面積ではざつと支那本部の半分が皇軍の占領地もしくはその支配下となり、人口においては約二億六千五百萬人に對する直接の支配権がなくつた。支那の人口は滿洲國が獨立した結果、普通四億人と計上されてゐるから、残る一億三千五百萬人、すなはち三分の一にしかその勢力が及んでゐない。

この地域及び人口の概數計算には福建、江西の二省を準失地として取扱つておいた。それは今一步皇軍が武漢方面から南進し、廣東方面から北進すれば、前記二省は孤島同様の状態に陥ることになり、これは當然さやうになるべき形勢に在るからであつて、決して我田引水の

議論ではない。以上の既に占領した地域と準占領地域とは、山西省の西部から廣州市の西部に一直線を下した東に在るのである。

この線の東部地方は經濟的に極めて重要な地位を占め、人口の密度も高く文化もまた開けてゐる。これに反し蔣政權下に殘る西部地方は、四川省が物資に富み經濟的に重要視されるだけで、他の陝西、甘肅、雲南、貴州、廣西などは、物資が極めて貧弱で民度は至つて低く、交通もまた甚だ不便である。したがつて人口の密度も非常に低く、一平方キロにつき四川省が九二七三、雲南省が二九五九、貴州省が三九二三、陝西省が四九九九、甘肅省が一六六九、寧夏省が一三八八で、これを江蘇省の三三六七七、山東省の二四四〇三、河北省の二〇三二七四、河南省の一八八二四、安徽省の一五三五一などとくらべて見れば、蔣政權下に殘された地域がどんなと

ころであるか、大體見當がつくであらう。

事變前においてすら、蔣政權は軍事費の捻出に一方ならぬ無理算段をしてゐた。それが戦争で莫大な金額を使つた揚句の果が、こんな貧弱な地域に追ひ込まれ、泣面に蜂の悲境に沈淪してゐる。しかも尙ほ徹底的に抗戦を続けるに強がりをつけてゐるからには、そんな貧弱な地方の住民に軍費萬端を背負はせなければならぬ。そんな無理なことが出来るかどうか、常識で判断が出来る。ことに前途に何等の光明もない苦痛を人民が忍受する筈はなく、たとへ蔣の一派が如何に宣傳し、如何に巧妙に立廻り如何に人民を騙しても、その地方の民間に、つられてつぎ込むだけの資力がなから結局問題にならぬ。これでは單なる地方政權への頓落ではなく、實に一落千丈の窮地に突き落されたものといはなければならぬ。

厭戦傾向漸次濃厚

彼等抗日派の者どもは歐米の援助にすがつて苦境を切抜けようといふが、前號漢口、廣東陥落の反響に現はれてゐるやうな状態で、頼りにはならぬ。然るに溺るゝ者は薬をも掴むのととどほりに、全く判断力

を失つた者が、可能性なき救援を頼つてゐるに過ぎない。あはれむべき状態に在る。たゞし蔣派も血迷つた者ばかりではなく、いくらか反省しかけた人もあつて、外力依存の望みなきを説き、自力更生論を提げて善後策を諷示し、あるひは平和論を通じて局面の轉換を求め向きもある。

彼等はまだこれまでの行が、りや周囲の事情から、率直に抗戦反對論を唱へることが出来ないで、間接にそんな空気を造らうとして、「ソ聯にしろ英、米、佛にしろ決して徹底的に援助してくれる見込みはない。過去の幾多の事實がこれを證明してゐる」といふやうな筋書で議論を進め、結論において、「だから自力で出来るだけの努力を拂ひ、局面の轉換を計るべきである」といふやうな論法で、表面から見ただけでは抗戦論のやうにも考へられるが、その反面に、この上戦争を續けて見たところでは勝つ見込は立たず、被害の上塗りでもどうにもならぬなる恐れがあるから、速かにあきらめて戦争を停止した方が賢いといふことを、考へさせるための論法とも見られる。

平和論にしてもその通りで、支那の自主を傷つけず、

領土を失はない条件であれば和議に應じられるが、そんな条件で日本が承知するものとは考へられないから、この際平和調停などは問題にならぬといひ、これまた平凡な意見のやうであるが、その反面に協議の出来さうな条件を編みあげて戦争を打ち切りたい、との希望の潜んでゐることが想像される。蒋介石下野説の流布はこれに關聯したもので、蔣の隠退を希望する聲といへる。

對日認識不足に陥され共産黨にそのかされて、脱退の如く威勢よく立ちあがつた抗日團の一味も、敗戦に敗戦を重ね次第に奥地に迫詰められて心細くなり、共産黨の冷徹もありがたくなるといふので、何とか善後策を講じなければならぬ、といふやうに心境が變化して來てゐる者も少なくないといはれる。また武漢や廣東方面その他遠隔地の者には、まさかこんなひどい事態を醸さうなどは夢想だにしなかつたので抗日運動に何等反對しないのみならず、愛國の美名を冠する偽看板とは承知しながら、相手をうった者が随分多勢あつたが、事ここに至つては蒋介石の誤つた指導を怨んでゐるやうだ。たゞ武力の背景を持つ蔣に、直接たてつけないだけである。

しかし一般民衆の間に反蔣空気が濃厚になつたことは蔽ふべからざる事實で、彼及びその一派のいはゆる要人

達が、その所在を極秘にしてゐて新聞に書かせないことにより、民衆の反感から來る危険を如何に恐れてゐるか想像される。こんな苦しい環境から、蔣も腹の中では最後が近づいたと思はないでもなからうが、元來瘦い體の強い男だから、萬一の儼然に期待をかけ一か八かで頑張つて見ようといふ氣持だと察せられる。

この會議では、軍事、政治、經濟、交通その他各般の事項に關して非常に多くの提案が議せられたが、要するに抗戰繼續を目標として開かれたものであることは、蒋介石の電報に現はれた通りである。

蒋介石はまた國民參政會議開會の機を利用して對内外の大々的宣傳の目的で十月三十一日付「全國民に告ぐの書」を發表した。それは非常に長いものであるが、歸着するところは前者と同様、持久抗戰に奮闘努力を求めた呼びかけである。

十一月一日の國民參政會議は、四つの項目についての報告があつた後臨時動議が出た。それは蔣の呼びかけに答へたもので、「緊密に團結して抗戰を繼續し、軍事委員長蔣介石を擁護する」といつたやうな内容の案で、同種類

政員陳紹禹等七十三人連名の案もあつた。この六件は合併討議の結果

蔣委員長の宣示せる全面抗戰持久抗戰、主動爭取の政府の既定方針を擁護し、今後全國民は蔣委員長の領導下に斷乎として抗戰し決して屈服せず、共に守つて敵を、以て抗戰建國の任務を完成すべし

といふ決議文として發表された。

要するに、この會議は専らかゝることをやる目的で開かれたのであるから、右のやうな決議文が出来たり、抗戰に關する各項の方針計畫などがデッチあげられたのである。すなはち一般民心は既に蔣介石を去り、抗戰に厭きてゐるが、蔣ならびにその直系はなほ執念深く、しかも漢民族特有のねばり強さで反抗を続けようとしてゐるから、實力としては偏僻な地方に迫込まれた一地方政權に過ぎないが、今後相當長くゲリラ戰、テロ行爲、宣傳等によりうるさく對抗するものと見なければならず、わが國としては單なる蔣政權の顛落によつて堅忍持久の精神をゆるめるべきものではない。

共産黨をめぐる風説

十月二十七日の重慶電報によれば、同日國民政府外交

部長王寵惠はドイツの海通社(トランスオーシャン)といふ通信社の代表と會見した際、「最近支那政府は改造して左翼分子が勢力を得るに至りはないか」との質問に對し、王部長は「そんなことはない」と否定し、さらに「各黨は現在いづれも過去における各自の見解を棄てて團結一致し、相携へて困難に當つてゐる」と言明し、續いて支關係につき、「今回の戰爭における敵はたゞ日本あるのみで、西洋各國とは少しも嫌りがない。こんな難局に直面してゐるから、どの方面からでも友誼的援助を受けざるを得ない。この理由からソ聯の援助を受けてゐるので、決して左傾するやうな理由はない」と説いた。

更に抗戰繼續運動

武漢、廣東陥落直前から和議に關する噂が、香港を始めとして廣東、重慶などに流布された。これは前記の如く人民の希望流露と見られるが、これを阻止すべく共産黨や蔣政權下の頑迷分子が活動を開始し、御用新聞通信を通じて平和論に反駁を加へたり、攻撃したりし始めた。彼等抗戰繼續派は「武漢や廣東の放棄は豫定の行動で、全體的に見て支那側は何等悲觀すべき状態に陥つてゐない。日本軍を更に深く奥地へ引き入れて日本軍に徹

底的反撃を加へるのだ。また日本は物心兩方面に非常な痛手を負ひ、支那側の最後の勝利は疑ふべくもない、この際抗戦の手を緩めてなるものか」などと、たとひ蔣政権に好意を持つ第三國人でも匙を投げてゐる今日、開いて果れるやうな出鱈目やデマ宣傳を放送し、ダレて来た抗戦気分を戻さうと猛烈な活動をやつてゐる。

彼等は、大勢上から見ると、それだけでは不十分なことを知つてゐるので、さらに國民參政會（共產黨の主張にしたがつて出来た機關で、國民黨だけの機關では、國民全體を物心兩面において完全に動員するに足りないから、各黨各派の代表的人物を集めて非常時の對策を議し、それによつて全國民を指導すべきであるとの提案を蔣介石が容れたのである。）の第二回會議を十月二十八日から開くことにした。

同會議開會に際し、蔣介石は議長汪兆銘以下各參政員宛に電報を寄せたが、その中に自分は軍務多忙のために參加出来ないことを先づ述べ、わが武漢攻略軍に多大の損害を與へたとはいつてゐるが、失陥については何もいはず、京漢、粵漢二線の西方においてはすでに充分の應戰準備が出来てゐるから、日本軍の進出を待ち、全國民

の呼應によつて決死の戦争がやれると説き、現下の軍事情勢は全く吾人の豫定の決勝方略に愈々接近して来たことを樂觀を裝ひ、しかし敵（我が國を指す）も全國民力を傾けて來てゐるのであるから、國民が如何なる犠牲をも忍受する決心でやらなければ、今一步といふところまで來てゐながら失敗する恐れがあると警告し、「前回の會議の團結勳勵の精神、數ヶ月來の實地工作における觀念にしたがひ、最善の計畫をたてて政府の方針とされたい、會議後各自の勤務地に歸つた後は、政治經濟、抗戦に關係ある建設事業、兵員の補充民力の發展に猛進盡力されたい」と希望するなど、抗戦繼續第一主義にもとづいて所感や希望事項を述べた。

王寵惠が、ソ聯からいろいろと援助を受けてゐる結果、共產黨の勢力が強くなつて、共產黨員を政府部内に引入なければならなくなる、なんて答へる筈がない。畢竟かゝる新聞記者の質問が出て來たのは、重慶方面にまで共產黨の勢力が擴がり、今にも共產黨側から入閣する者がありさうに噂されてゐる結果だと見るのが常識であらう。勿論共產黨側の入閣が實現されるか否かは、また別の問題であらねばならぬ。

蔣政権の頹落に伴ふ共產黨の進出、國共不和説など、

共產黨を繞る種々の噂が頻りに傳へられる。進出も當然豫想されることであり、不和も幾多の小さな事例があるが、二つながらまだ積極化してはゐないやうだ。蔣介石側からいつても、共產黨側を對照して考へても、まだ雙方で互に對手を利用してゐる際で、敵本主義的には利害の一致點が存在し、自分側の利益のみに重きを置き、それがために摩擦を生じさせてはいけなさと自戒してゐる時期を脱しないと見るべきではあるまいか。しかし情勢はすでにそんな噂が出るまでに達して來たのである。

廣東武漢陥落の影響

武漢の陥落は陝西、甘肅二省に駐屯する中央軍を孤立せしめたこと、陝西省東部に在つて蠢動し山西省方面を騒がせた共產黨の活動を封ずるに都合となつたことなどは、門外漢にも地理的關係から容易に想像される。これを専門家の目から見れば、さらにいろいろの影響があるだらうし軍事上重大な結果を齎したものである。

經濟交通においても、蔣介石政権にとつて甚大な痛手を受けたもので、その主な事項についていへば、事變後西の寶庫といはれる四川の豊富な物資が、揚子江の水運

の便により漢口に出で粵漢鐵道を通じ廣東、九龍を經由して海外に輸出されてゐたのが、一時杜絶の已むなきに至り、四川省に多大な打撃を與へる。また漢水を下つて漢口に集まつた甘肅、陝西、河南三省の物資もある期間には原産地もしくは途中で停滞せざるを得ない。それと同時に、輸入品の輿地運搬が停止され、これによる關係地方の經濟的打撃はいふまでもなく、蔣政権にとつては關稅その他の減收を招來し、出費多端の折から財政當局者は嘆聲をもらしてゐるであらう。

廣東の失陥は軍事、財政、經濟方面において、武漢陥落以上に蔣政権を苦しめるものである。先づ第一に輸入される武器彈藥の六十%乃至七十%が、香港から九龍或いは廣東を経て、粵漢鐵道により輿地に運ばれてゐたのであるが、それがバツタリ停止されるのであるから、蔣配下の諸將は今日この頃悲鳴をあげてゐることは想像に難くない。

これまで輸入武器の運送は粵漢鐵道、雲南鐵道（支那名滇越鐵道、佛領印度支那からの武器輸入はこの線によつてゐる）、ソ聯からトラックなどによる新疆、甘肅、陝西を経由の三線があつたが、數量と速力の二點において粵漢

線が断然リードしてゐた。雲南鐵道は狹軌で施設の不備なため、故障が多く能率があがらなければならず、昆明から先はトラックによらなければならぬので、少からぬ不便がある。新疆省經山線にいたつては距離の遠いのと、道路が悪いのとで意の如く運ぶことが出来ない。その證據には陝西方面の共產軍ですら、武器補充のために係員を香港に駐在させてゐる。

今後の武器運送路としては前記の残つた二線の外に、昨年竣工した英領ビルマから雲南省に入る自動車道路により、大理を経て昆明に達する線、佛領印度支那の河内から廣西省境に至る鐵道、西部廣東省の海港北海から廣西省南寧にいたる自動車道路、佛國租借地の廣州灣から廣西省にいたる道路などが、非常に無理をして利用されると思ふ。しかしこれらの能率は如何に無理をしても、到底粵漢線に代る役割を演ずることは望めない。

なほ昆明から四川、貴州、湖南の諸省に通ずる聯合自動車道路があり、廣西省にも南寧から桂林を経て湖南に出るもの、貴州省にいたるもの諸線があり、湖南省からも四川その他の諸省との間に自動車道路が開かれて、同方面の交通は思つたよりも便利だといはれ、さらにその改造や新規修築に一生懸命になつてゐると傳へられる。

また武漢、廣東の危険に瀕するともに、ソ聯と重慶との聯絡を便利にしなければならぬとの議が起り、ソ支兩國間の協議で重慶から新疆省政府所在地迪化まで中國航空公司の定期航空路を開き、同地で新疆ソ聯間のソ聯側航空路と聯絡を取ることにするらしい。多分この航空路は近く開航するだらう。これは武漢、廣東陥落が國民政府をより深くソ聯依存に向はしめつゝある端的な表はれである。

官廳刊行圖書月報

從來「官廳刊行圖書目錄」として各官廳で編纂する圖書の目錄を掲載年四回發行してゐたが、今年一月分より「官廳刊行圖書月報」と改題、月刊とし、内容を官廳別と分類の兩部に分ち兩方面より索引できるやうにし登録圖書の概要を知る至便のものとした。本月報には、中央官廳をはじめ外地官廳及び各道府縣で發行される圖書は全部網羅してある。現在七月分まで發行されてゐるが、八月分以後も近日中に續刊の筈。各冊とも定價四十錢、送料六錢、外國實費

内閣印刷局發行

最近公布の法令

内閣官房總務課

- ◇朝鮮總督府地方官制中改正ノ件 (十月八日公布勅令第六百七十一號)
- ◇臺灣地方待遇職員令中改正ノ件 (十月八日公布勅令第六百七十二號)
- ◇樺太廳通信官官制中改正ノ件 (十月八日公布勅令第六百七十三號)
- ◇鐵道局官制中改正ノ件 (十月十二日公布勅令第六百七十四號)
- ◇昭和十三年勅令第二百五十七號臨時厚生省二職業務ヲ設置スルノ件中改正ノ件 (十月十二日公布勅令第六百七十五號)
- ◇昭和十三年勅令第四百五十一號職業務紹介所二臨時職員増雇ノ件中改正ノ件 (十月十二日公布勅令第六百七十六號)
- ◇廳府縣臨時職員等設置制中改正ノ件 (十月十二日公布勅令第六百七十八號)
- ◇支那事變に伴ふ失業者の救済等の失業對策に關する事務に従事せしめるため、職業紹介所に職業主事補五十人、又北海道廳に屬一人、府縣に通じて屬二十二人を増員したものである。
- ◇關東監獄官制中改正ノ件 (十月十三日公布勅令第六百七十九號)
- ◇飼料配給統制法施行期日ノ件 (十月十三日公布勅令第六百八十號)
- ◇飼料配給統制法施行令 (十月十三日公布勅令第六百八十一號)
- ◇飼料配給統制法(附則第六十二號)を昭和十三年十月十五日より施行し、これに伴つて同法施行のため必要な事項を規定したものである。
- ◇工作機械製造事業委員會官制 (十月十四日公布勅令第六百八十一號)
- ◇工作機械製造事業法第二十六條の規定に基づき、同條の規定せ

る事項を調査審議するため工作機械製造事業委員會を設置することにしたもので、同委員會は商工大臣の監督の下に前記の權限の外、關係各大臣の諮問に應じ、工作機械製造事業に關する重要事項を調査審議し或は進んで同事項に付き關係各大臣に建議することが出来、會長(商工大臣)を以て充つ及び委員二十人以内を以て組織され、必要に依り臨時委員をこれに加へ得る。委員及び臨時委員は何れも關係各省廳高等官及び學識經驗者中より任命し、學識經驗者中より任命された委員は任期(二年)の定めがある。

石炭坑煤塵發散防試驗所官制 (十月十五日公布勅令第六百八十二號)

昭和十一年勅令第三百八十二號鑛山監督局ニ於て行フ受託試驗ノ手数料ニ關スル件ノ改正ノ件 (十月十五日公布勅令第六百八十三號)

現下の情勢に鑑み石炭坑における災害防止の途を講ずるため石炭坑煤塵發散防試驗所を新設し、瓦斯又は炭塵の煤塵發散防に關する調査研究並びに石炭坑川煤塵類及び機械器具の試験及び檢定に關する事務を掌らしむることとし、商工大臣の管理の下に、所長(技師)を以て充つ、技師九人、屬三人及び技手十五人の職員を置くことにしたもので、之に伴ひ商工部門臨時職員中一部は同所の職員に組織せらるゝこととなつた。なほ同時に從來鑛山監督局において行つて來た受託試驗中同所の所管に屬するものは移管されることとなつたため昭和十一年勅令第三百八十二號にも改正が加へられた。

十二月十五日—二十一日
經濟戰強調週間

政府では本年七月以後強調して来た經濟戰に關する國民運動を更に強調實施し、益今後の長期建設の體制を整へ、戰所期の目的を達成するため、本年掉尾の國民精神總動員運動として十二月十五日から向ふ一週間の年末期をねらつて「經濟戰強調週間」を實施することに成り、内閣情報部はじめ各省間で協議の結果、左の實施要綱を決定した。

實施要綱

(一) 時局の現段階に於ける經濟戰の重要性並びに政府の採りつゝある政策に對する理解を十分徹底せしむることに、特に左の事項に重點を置き經濟戰の強化を図ること。
イ、生活の刷新、ロ、物資の節約、ハ、貯蓄の實行
(二) 生活の刷新に關しては臨時國民生活の確立を目途とし特に年末年始の節制に努むること

(一) 物資の節約に關しては國防資材の確保、生産力の擴充、輸出の振興、物價騰貴の抑制等の見地より物資の節約を要する所以を明らかにし、これが實行を奨め併せて公定價格の遵守に努むること
(二) 貯蓄の實行に關しては貯蓄報國の意義を更に徹底せしめ特に貯蓄組合の整備充實に努むること
實施方法

(一) 本週間實施に關しては各に行ひたる貯蓄報國強調週間、經濟戰強調週間に於ける遊休の懸念及び其の實績を十分考慮の上計畫すること
(二) 官公署、學校、各種團體、會社、銀行、工場、礦山等に於ては適切な賞與項目を設定するとともにこれが賞與を積むる様工夫すること
(三) 右の賞與日に付いては道府縣に於て次の參考案(例)を参照し適當なる參考案を作成の上指示すること
注意事項

(1) 買溜を爲さざるは勿論物資の活用を圖り特に新年に際しての衣類調度等の新調を見合すこと
(2) 年末年始の賣出、廣告、裝飾、福引等はこれを控へ目にするにと
(3) 價格料金の引上を極力避くるとともに販賣者は勿論購買者も公定價格を遵守すること
二、物資の節約に關する事項
(1) 買溜を爲さざるは勿論物資の活用を圖り特に新年に際しての衣類調度等の新調を見合すこと
(2) 年末年始の賣出、廣告、裝飾、福引等はこれを控へ目にするにと
(3) 價格料金の引上を極力避くるとともに販賣者は勿論購買者も公定價格を遵守すること

(一) 本週間の名稱に付ては貯蓄報國、生活刷新、物資節約等適當なる字句を加へ用ふるも要なきこと
(二) 週間の期日は地方の事情に依り多少前後するも要なきこと
國民の實踐を求むべき事項
一、生活の刷新に關する事項
(1) 年末年始に際しての贈答はこれを廢止すること
(2) 忘年會、新年宴會等はこれを差控へること
三、貯蓄の實行に關する事項
(1) 官公署、銀行、會社、工場等の勤務者は年末賞與を極力貯蓄に當つること特に股懸產業關係者其他他収入の増加せる向に在りては高率貯蓄を實行すること
(2) 國債又は貯蓄債券の應募に努むること
(3) 貯蓄組合へ進んで加入するとも
に毎月の貯蓄額の増加に努むること

週報最近號主要內容

第百一號 (九月二十一日)
▽商業報國運動に就いて
▽時局と放送
▽富金山を占領す
▽江上、空中より武漢進撃に協力
▽實施される商店法
▽ベル一國を語る
第百二號 (九月二十八日)
▽銃後後援の實狀
▽傷兵の醫療保護と職業補償
▽光州・商城を占領す
▽馬頭・武穴の堅壁を攻略す
▽緊迫する歐洲政局
第百三號 (十月五日)
▽歐洲大戰後の列國傷兵軍人保護對策
▽行刑と銃後活動
▽事變と外人獻金英談
▽田家鎮攻略
▽進撃する海軍遼江部隊
▽支那新政權の發展
第百四號 (十月十二日)
▽軍人援護に關し傷兵なる勅語を賜ふ
▽武漢作戦の軍事的意義
▽滿洲移民の現況報告
▽排市・蒼溪を占領す
▽鶴、長嶺長明を圍く
▽ミュンヘン四國協定

第百五號 (十月十九日)
▽轉業對策
▽事變と軍馬
▽蔣政權と南洋華僑
▽南支作戦開始さる
▽南支作戦の新展開
▽その後のスペイン
第百六號 (十月二十六日)
▽皇后宮御歌を拜して
▽支那今後の經濟開發問題
▽今夏の集團勸勞奉仕作業を顧る
▽猛進 廣東に入城
▽攻略迫る武漢
▽廣東を語る
第百七號 (十一月二日)
▽漢口攻略と東亞の再述(巻頭言)
▽戰時經濟時局開答
▽武漢三鎮遂に陥落す
▽漢口攻略の意義と海軍作戦の回顧
第百八號 (十一月九日)
▽長期建設と國民精神の作興
▽金貨・金塊の國勢調査
▽武漢方面追撃戰
▽珠江遼江作戦の展開
▽漢口、廣東陥落の反響

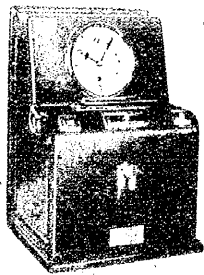
Table with columns: 注意、御、所、込、申、價、定、週、報. Includes subscription information for 'Weekly Report' (週報) and contact details for the editorial office.

交替制に・生産擴充に

ニデカ タイムレコーダー

日本電氣株式會社製

勞力と時間の
最高管理器!



五分單位式
時報裝置附



★型錄送呈

日本電氣株式會社特定販賣所
ニデカ販賣株式會社
本社 東京市日本橋區通二(大同ビル)
電話 日本橋 4607・5034
支店 大阪市西區土佐堀通一(大同ビル)
電話 土佐堀 7034

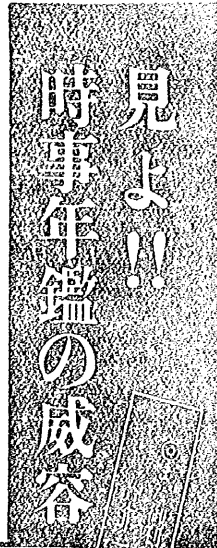
四六倍判八百余頁
定價 二圓五十錢
送料(書留) 地方 三十三錢
市内 十二錢

發行所 東京・銀座

社団法人 同盟通信社

郵社文の際は振替用紙又は振替口座東京八五〇〇番を御利用下さい。

昭和十四年版
理想的な年鑑・經濟的な年鑑
▽どの頁を開いても取替の類
▽趣味と實益とを兼ねた註にも分り
▽他のどの年鑑に比べて
▽最も重寶な年鑑!!
▽他のどの年鑑に比べて
▽最も重大の内容を有する年鑑!!
▽どんな疑問でも之さへあればすぐ氷解する年鑑!!



泉源の識智際覽
書全科百の備必戸萬
鑑年大合綜す盡をて凡に冊一
頁〇〇八々堂判倍六四の一唯

「時事年鑑」は凡ゆる年鑑と百科事典を一冊に壓縮した我國唯一の綜合大年鑑であります。その内容は今更申すまでもなく飽く迄も「時事年鑑」二十年の傳統を生かすと共に本社獨特の組織と完備せる通信網によつて資料の豊富、統計數字の正確を誇り得る最新のものとして確信致します。「昭和十四年版時事年鑑」は政治、外交、軍事、財政、經濟、交通、労働に、更に文藝、美術、スポーツ等に、事變下日本の凡る實相と國際非常時局の情勢を克明に記録しつくしたもので、總ての年鑑中の王座「標準版」の自信を以つて世に贈るものであります。敢へて銀行、會社、工場、學校は勿論御家庭にも是非一部を御備へになる様お奨めする次第であります。

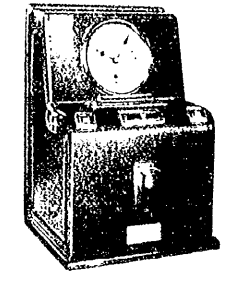
露光量違いにより重複撮影

交替制に・生産擴充に

ニデカ タイムレコーダ

日本電氣株式會社製

勞力と時間の
最高管理器!



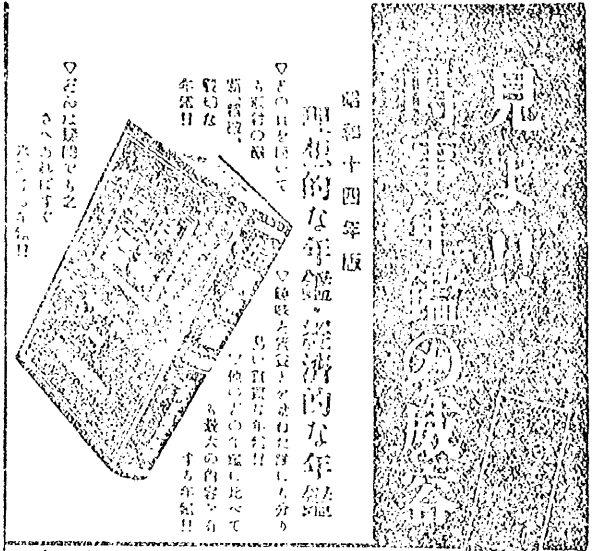
五分單位式
時報裝置附



★型錄送呈

日本電氣株式會社特定販賣所
ニデカ販賣株式會社
本社 東京市日本橋區通三(大同ビル)
電話 日本橋 4607・5034
支店 大阪市西區土佐堀通(大同ビル)
電話 土佐堀 7034

四六番冊八百余頁
定價 二圓五十錢
送料(普通) 地方 三十三錢
市内 十二錢



源の識智際
警全科百の備必戸萬
嘉年大合終才重をて凡に册一
頁〇〇八々堂刊倍六國の一唯

發行所 東京・銀座 法人 同盟通信社
本日即時申請申込下さい
郵料(普通) 地方 三十三錢 市内 十二錢

「時算年法」は凡ゆる年鑑と自ず事典を
一冊に採録した我國唯一の綜合年鑑で
あり、その内容は全頁中すまでもな
く飽く迄も「時算年法」二十年の傳統を生
かすと共に本誌獨特の組織と準備の通
信網によつて資料の豊富、統計数字の正
確を誇り得る最新のものとして編纂し、
昭和十四年版時算年法は政治、外交、
軍事、財政、経済、交通、労働、教育、文
学、美術、スポーツ等に、事變下日本の
凡る真相と實際を當時局の情勢を究明に
記録したもので、總ての年鑑中
「王座」の「時算年法」の自信を以つて世に誇る
ものであります。敢て銀行、官廳、学校、
學校は勿論御家庭にも是非一冊を御備へ
になる様にお奨めする次第であります。

露光量違いにより重複撮影

週

報

第一〇九號

昭和十三年
五月十六日發
日替三種郵便物認可
行（毎週一回水曜日發行）

本書の大きさは國定規格A5判

トヨナル

電気の総動員!

2号型
¥.95

他に1号型、3号型が御座います

家庭電気の節約に
トヨナル
国民ソケット

松下電器株式会社